

長泉麗峰山の会	文・北村	写真・後藤、加藤、北村
山行番.	NO. 2040	
日時	2023年10月21日(土) 晴れ時々くもり	
山域	愛鷹連峰・鋸岳～位牌岳、割石峠～越前岳(2023・ブナ観察)	
コース	A・位牌班＝山神社 7:00 - 登山開始 7:13 - 割石峠 9:57 - 蓬莱山 10:10 - 鋸岳(11:28) - 位牌岳(13:01) - 前岳(13:44) - 山神社 14:57 B・越前班＝割石峠-呼子岳 10:16-越前岳 11:30～12:19-山神社 14:17	
標高差	上・下り＝約 707m	
難易度	非常に困難 困難 A=レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
地元の山に愛着を。ブナ観察&ハイク		
参加者	A班・鋸～位牌班＝加藤(CL)、山田、北村＝3名 B班・呼子岳～越前岳＝後藤、伊藤、松永	

山域が山の会の本拠地 長泉町にもまたがる愛鷹山塊。愛着ある愛鷹山のブナ定点観察と看板差し替え、ハイキングを通じた会員親睦と登山スキル向上の大きく2つの目的をもった山行に参加させていただいた。山行報告書は、1.ブナ観察定点観察・看板差し替え、2.愛鷹山ハイキング と分けて記載させていただく。

1. ブナ定点観察・看板差し替え

結論として結実度は不作だった。詳細は次ページの「結果一覧」に記載する。今回の観察で実が確認できたのは、No.9 位牌岳頂上の一か所のみ、それ以外は実が確認できなかった。最近、東北や富山県を中心とした中部地方でクマ出没が多発しているが、大きな要因としてブナの実の不作が影響すると報じられている。ブナ不作は愛鷹山も同様であった。ただ、木は皆元気に葉をつけていた。

観察は山神社をスタートして割石峠までは参加者全員で、後半はG会長率いる B班(呼子～越前岳)、Kさん率いる A班(鋸岳～位牌岳)に分かれて実施され、私はA班の所属となった。私は2023年6月入会のため、ブナ観察は初めて。山好きの仲間と交流しながら技術習得すると共に、山を守る活動にも積極的に関わりたいと思っていた。今回の山行で、また新たな経験ができて有意義な1日となった。

全員で観察したブナは3本。この三本で作業の手順を把握することができた。旧看板は鉄板に塗料で文字が書かれたものだったが、新しい看板は木目模様の樹脂に大きく文字が印刷され、見やすく森に溶け込むデザインに一新された。

A班と分かれてからは、KさんとYさんが看板交換、私は部材搬送と旧看板回収、写真撮影を担当。数本処理して慣れてくると3人のコンビネーションは抜群。対象のブナを見つけたら、F1レースのタイヤ交換並みの速度で作業できた。一部存在が確認できないブナもあったが計画した任務は全う出来た。ザックに入れた部材と工具の出し入れが手間だった

ので、次回は都度ザックを降ろさず出し入れできる工夫をしたい。

ブナ観察結果一覧

結実度：○=豊作、△=普通、×=不作

ブナ No.	場所	標高 (m)	看板差し替え	結実度
1	割石沢	995	済 ※1	×
2	割石沢	1080	済	×
3	割石峠下	1240	済	×
4	呼子岳	1313	未実施※2	×
5	蓬萊山前	1260	済 ※1	×
6	鋸岳 1	1230	未実施(対象ブナ見つからず)	
7	鋸岳 2	1300	済	×
7-1	鋸・北間	情報なし	未実施(対象ブナ見つからず)	
7-2	鋸・北間	情報なし	未実施(対象ブナ見つからず)	
7-3	北面沢コル	情報なし	未実施(対象ブナ見つからず)	
8	北面沢コル-位牌間	1320	済	×
9	位牌岳頂上	1457	済	△ ※3
9-1	位牌-前岳間	情報なし	未実施(対象ブナ見つからず)	
10	位牌-前岳間	1375	済 ※4	×
11	前岳頂上	1336	済	×

※1. No1, No5 旧看板が見当たらず、対象木と判断したブナに新看板を取付け。

※2. No4 A 班が観察実施、看板が高所にあったため交換は保留。

※3. No9 枝に実は見えなかったものの、地面に種を多数確認。次ページ写真参照。

※4. No10 旧看板が木の下に落下していた(人為的か自然落下かは判断できず)。

定点観察場所 地図





No1 割石沢 結実度× 新看板



No2 割石沢 結実度× 旧看板(撮影:後藤)



No3 割石峠下 結実度×



No5 蓬萊山下 結実度×



No7 鋸岳2 結実度×



No8 北面沢コル-位牌間 結実度×



No9 位牌岳山頂 結実度△



No9 の下で多数確認 ブナの実

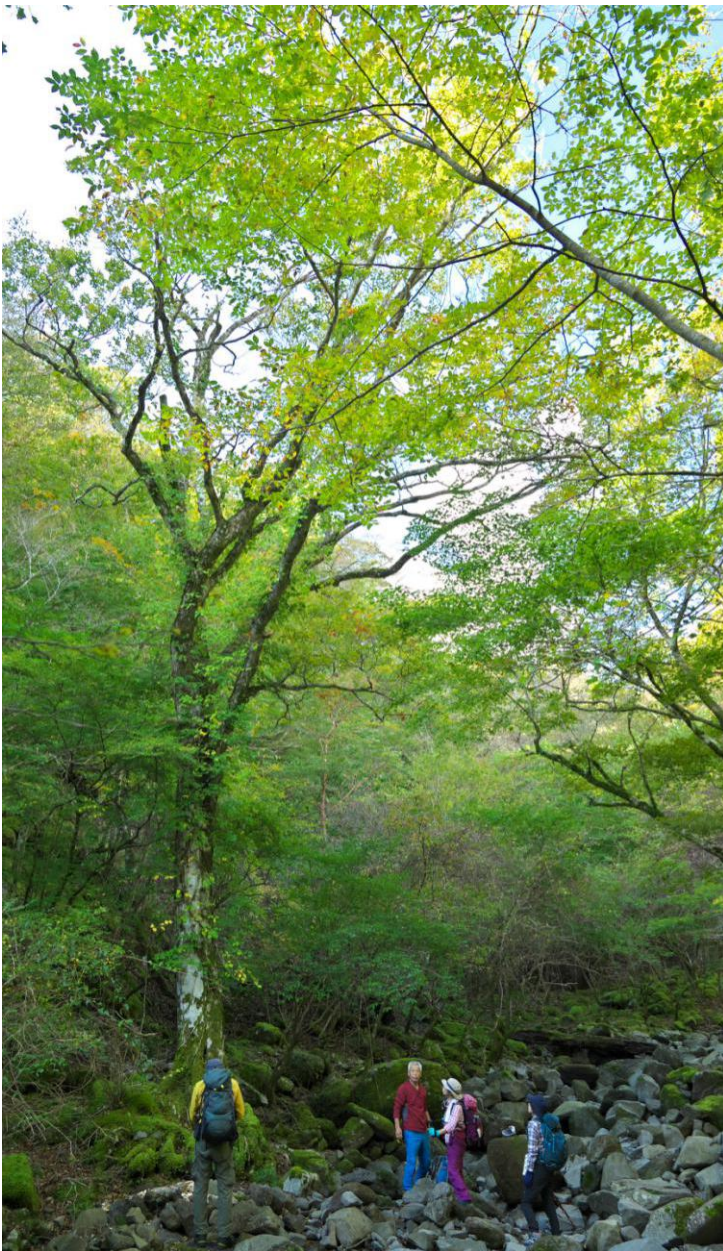


No10 位牌岳-前岳間 結実度×



No11 前岳山頂 結実度× (撮影:加藤)

ブナ観察・看板差し替えの様子



No1 割石沢下のブナと長泉麗峰の仲間達
右からMさん、Iさん、G会長、Yさん



No1 「実はあったけど古いね」Iさん



No2 のブナに到着するメンバー達
(撮影:後藤)



No9 位牌頂上
「看板の角度は良いかな？」・・・Kさん

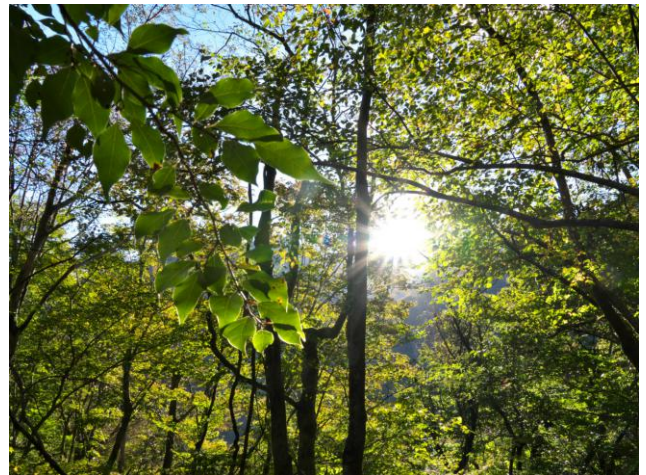
2、愛鷹山ハイキング

愛鷹山は自宅から近く、沼津アルプスと共に登山を始めた頃からよく訪れている山。大きく見える富士山もさることながら、冬は十里木の越前岳登山道から、ずらり並んで見える真っ白な南アルプスが美しい。居合わせた人と山を見ながら長々雑談したことがある。愛鷹山荘の向かい側に「キジ専用」と書かれたトイレがある、初めて見た時、キジを飼育しているのか？と不思議だったが、意味を知ってすっきり納得できた(笑)。

そんな愛鷹山塊の中で鋸岳は崩落が進む危険な立ち入り禁止区域。一生立ち入る事は無いと思っていたが、樹木観察目的で堂々と入れる貴重な機会をいただき幸運だった。G会長、Kさんありがとうございます。



スタート前 G会長から本日の予定説明



気持ち良い光が森に射す



足音も軽快にサクサク進む 右からG会長、Iさん、Mさん、Kさん、Yさん

山神社から割石峠下までは、全員一緒。作業はあるものの、ハイキングを兼ねているので山歩きを楽しみながら進んだ。秋以降、見る機会が減った花だが、愛鷹山は まだきれいな花が咲いていた。花に詳しいKさん、Iさんが「ここに咲いているよ」って感じで教えてくれるので喜んで写真を撮った。特にダイモンジとシャジンがキレイだった。まだ見たことの無いギンリョウソウが見られる場所も教えてもらったので、来年は開花時期に訪れたい。Mさんが登山道の樹木の植生に興味を持ち会長に質問する。聞こえてくる分かりやすい回答も勉強になった。ひんやりした森の空気と和やかな雰囲気癒された。



ダイモンジ



シャジン



割石峠下までは A 班と合同で和やかに (撮影:後藤)

B班と別れて、A班はいよいよ鋸岳に向かう。が、早々に観察中のブナが見つけれず苦戦、こんなに先ではないはずとKさんがザックを降ろして引き返し探しにしてくれた。素早い動きが頼もしい。KさんはGさんから山のすべてを学びエキスパートに成長した方。自分もカッコ良い2人や麗峰の仲間達から山の技術を学んでいきたい。

看板取付を終えて鋸岳手前まで来た。草の生えた大きな岩のような山体が立ちはだかる。最初の100mくらいは普通の道だったが、早々に緊張する登山道にかわった。

立ち入り禁止だけあって一般登山道とは明らかに違う険しさで、自由に登山者を通したら事故が絶えないことは容易に想像できた。

草で見えにくい足元、突然現れる落とし穴のような抜けた地面、上りきった急斜面の先に突然現れる切れ落ちた谷、脆い地盤は場所によっては石がポロポロと落ちる。さらにこの日は前夜の雨で岩が濡れて滑りやすくなっていた。

そんな難所も、Kさんが丁寧に道の状態、注意点を説明してくれて、様子を見守ってくれた。Yさんと私と安心して進むことができた。



鋸岳の入口 どこに道があるか見えない・・・

そんな険しい印象で始まった鋸岳だが、登山道に咲く白とピンクの野菊がハッとすると可愛さだった。こんなに綺麗に咲いている野菊を見たのは初めてのような気がした、ここで咲いているから一層綺麗に見えるのか？立ち止まって写真を撮らせてもらった。

途中でガスがかかりかけたが、陽射しと共に青空が見える瞬間もあって、逆光に透けるトリカブト、紅葉の先に見える駿河湾と富士市街の秋の景色も目を惹いた。



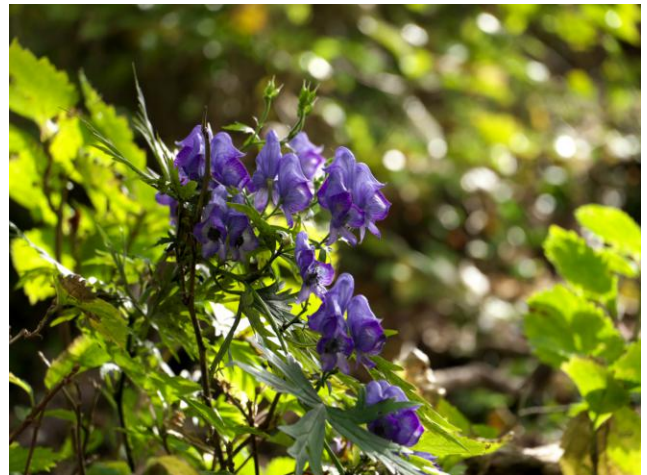
険しい登山道に癒しの光景が



かわいい野菊



駿河湾と富士市街地方面



逆光に透けるトリカブト

鋸岳の中間点で小休止して後半スタート。再び、壁のような鎖場が現れた。草木で視覚的な高度感は高くないものの、ミスすれば命に関わる。この日学んだ、ロープ場の通過の仕方、足の運び方を丁寧に実践しながら、Yさんと共に鋸岳をクリアできた。

この日は重めの個人装備に、回収したブナの鉄板の旧看板を一枚ずつ加える事になったので岩場通過の技術と共に脚力の良いトレーニングもできた。

岩場の終盤で「見つけた！」とKさんの大きな声。初めて見る美しく不思議な花、シラヒゲソウが咲いていた。カメラのファインダーで捉えたアップの花は神秘的だった。



夢中でのぼりました(撮影:加藤)



初めて見たシラヒゲソウ

<鋸岳感想:山田>

鋸岳は、越えても、越えても、次の谷と岩壁が目の前に現れ、1時間ほど夢中でしがみついて、なんとか乗り切りきりました。

激しいアップダウンと崖のトラバースの連続で、しかも壁面は草が旺盛に生えているので、ロープと鎖の始点と終点の全貌がよく見えません。

身を預けるポイントを足の先と手の感覚で探し出すしかなく、雨の後で岩も草も濡れていて、滑りやすい条件も緊張しました。

先導してくれるKさんがいたから行けました（逆に一人だったら絶対に無理）。

でもそれ故、やりきれた達成感は大きく、終わってみれば楽しかったです。



頑張れYさん！！



伸びた草で足元も見えにくい鎖場 （撮影:加藤）

前岳で最後のブナ観察を終えて残るは下山のみ。B班が待つ山神社に向けて、Kさんが「行くよ!」とペースを上げて下り始める。続くYさんもピタリとついていく。後から見てみると再生速度を早くしたビデオのようだった(笑)。他の登山者がいないのでブレーキがかかることも無かった。「頭 枝注意!」「足元注意!」と声をかけてもらいながらノンストップで下山した。いやぁ～気持ち良い下山だった。Kさんの試算通り、前岳から一時間でA班が待つ山神社に到着した。



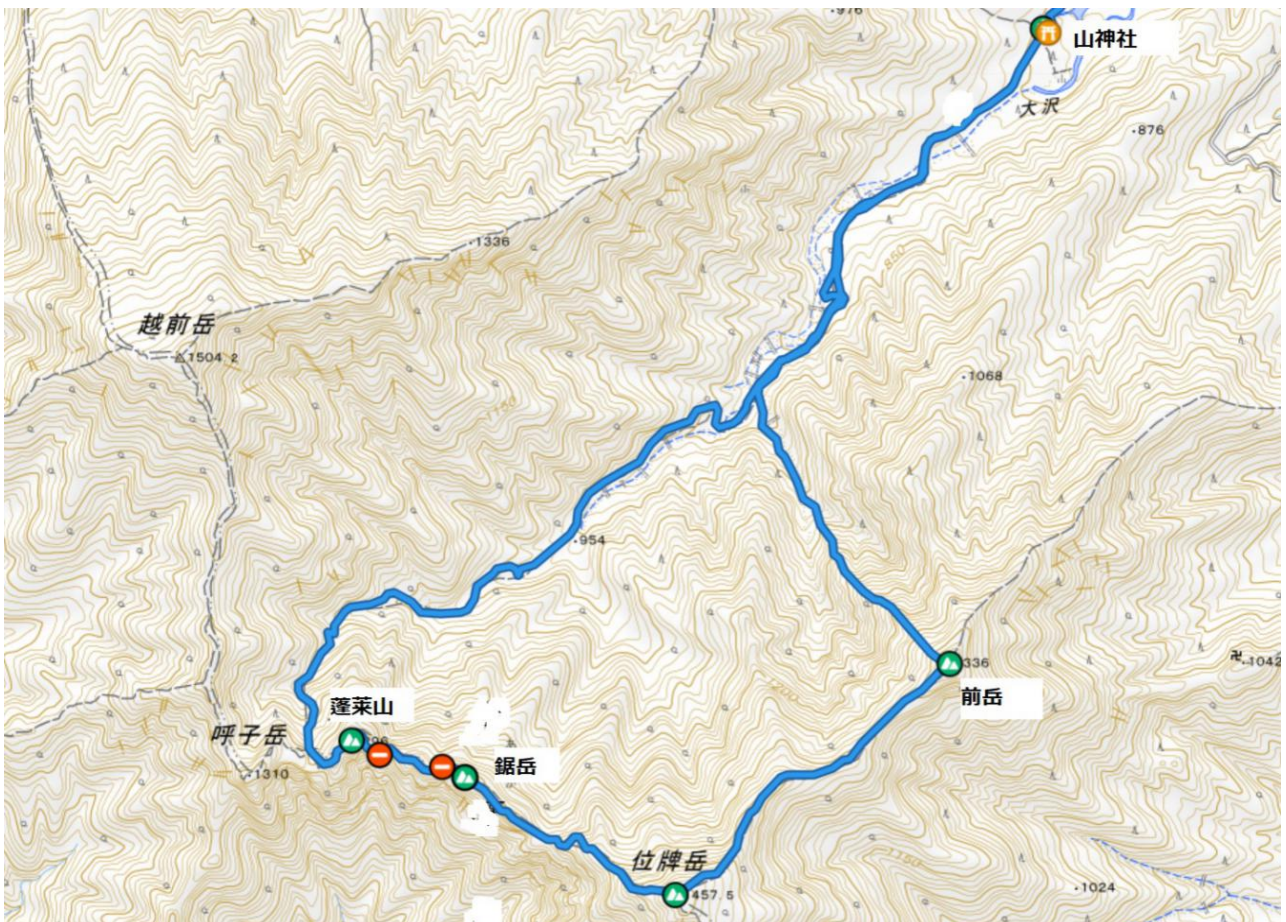
前岳山頂手前



B班が歩いた越前岳～黒岳稜線(前岳手前付近から)

ギリギリ下山予定時刻には間に合ったものの、B班を待たせての到着。待たせたかな? ちょっと不安だったが、「おつかれさま」と暖かく出迎えてくれてとても嬉しかった。身近な山で貴重な経験をさせていただき感謝の一日でした。

A班登山ルート概要



B 班写真報告



呼子岳観察木

我が会の越前岳・ブナ植樹地と保護区



支えが必要になった三角点柱



ごった返す越前岳山頂
多くは、十里木から登山
安易すぎる山の山頂は、
表土が失われ、三角点柱
は倒壊寸前
地元の自然保護団体（山
岳会）は、指をくわえ看
過で良いのだろうか？

愛鷹連峰・ブナ定点観察表

観察山域・第一ブロック（大沢～割石沢～割石峠～呼子岳～割石峠～鋸岳～位牌岳～前岳～大沢）

2000/07/11～ 観察者・裾野麗峰山の会

N 0		1	2	3	4	5	6	7	7-1	7-2	7-3	8	9	9-1	10	11
場 所		割石沢	割石	割石峠下	呼子岳	蓮葉山前	鋸1	鋸2	鋸・北間	鋸・北間	北面コル	北・位牌間	位牌頂上	位・前間	位・前間	前岳頂
標 高		995m	1080m	1240m	1313m	1260m	1230m	1300m	2019～	2019～	2019～	1320m	1457m	2019～	1375m	1336m
樹 高		20m	10m	15m	10m	7m	6m	8m	〃	〃	〃	12m	15m	〃	10m	15m
目 通		71cm	17cm	66cm	35cm	28cm	16cm	23cm	〃	〃	〃	40cm	67cm	〃	45cm	55cm
愛 称		まりこ	孝子	ひろこ	ひでこ	かずこ	節子	敏江	〃	〃	〃	ともこ	かがみ	〃	みつえ	ちよ
季 節		春 秋	春秋	春 秋	春 秋	春 秋	春秋	春秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
2000/07/01	10/07	4 ○	4 ○	5 ○	2 △	未 ○	未○	未○	2019～	2019～	2019～	4 ○	4 ○	2019～	4 ○	3 △
2001/08/19	10/21	4 未	4 未	4 未	4 未	未 未	未 未	未 未	〃	〃	〃	3 未	4 未	〃	4 ×	3 ×
2002/06/23	11/17	4 ×	4 確	4 △	2 ×	3 ×	4 ×	2 ×	〃	〃	〃	3 ×	4 ×	〃	4 △	3 △
2003/06/01	06/01	4 ×	4 △	未 △	未 ×	未 ×	未 ×	未 ×	〃	〃	〃	未 △	未 △	〃	4 ○	4 ○
2004/6/27	6/27	4 ×	4 ×	5 ×	4 未	3 未	3 未	3 未	〃	〃	〃	3 未	4 ×	〃	4 ×	4 ×
2005/06/05	10/27	4 ×	4 ×	4 ×	4 未	4 未	4 未	4 未	〃	〃	〃	4 ×	5 ×	〃	4 ×	4 ×
2006/06/11	10/22	4 ○	4 ×	5 ○	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	〃	〃	〃	3 ○	4 ○	〃	4 未	4 未

2007/06/10	10/14	4 ×	4 ×	5 ×	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	"	"	"	5 ×	5 ×	"	4 ×	4 ×
2008/06/15	11/09	4 未	4 未	3 未	4 未	4 ×	4 ×	5 未	"	"	"	4 未	4 未	"	4 ×	4 ×
2009/05/16	10/17	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	未 未	未 未	未 未	"	"	"	4 ×	4 ×	"	4 ×	4 ×
2010/ 春未	10/23	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	4 ×	4 ×	5 ×	"	"	"	4 ×	4 ×	"	4 ×	4 ×
2011/ 春未	10/10	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	4 ×	4 ×	5 ×	"	"	"	4 ×	4 ×	"	4 ×	4 ×
2012/05/05	秋未	4 未	4 未	4 未	未 未	4 未	4 未	5 未	"	"	"	4 未	4 未	"	4 未	4 未
2013/ 春未	11/0312/01	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	5 △	2019~	2019~	2019~	5 ×	4 ○	2019~	4 ○	4 ○
2014/ 春未	12/17	未 ○	未 ○	未 ○	未 ○	未 △	4 ×	5 ×	"	"	"	未 ○	未 ○	"	未 ○	未 ○
2015/05/09	11/29	4 △	4 △	4 △	4 未	未 ×	未 ×	未 ×	"	"	"	未 ×	未 ×	"	未 未	未 ○
2016/06/11	11/05	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	未 未	未 未	"	"	"	未 未	4 ×	"	4 ×	4 ×
2017/05/27	11/09	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ×	4 ×	4 ×	"	"	"	4 ○	4 ◎	"	4 ○	4 ○
2018/ 春未	11/17	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	3 ×	4 ×	4 ×	"	"	"	4 ×	4 ×	"	4 ×	4 ×
2019/ 春未	12/08	4 △	4 ○	4 △	4 ○	3 ×	4 ×	4 ×	4 ○	4 △	4	4 ○	4 △	4 ×	4 △	4 ○

												○					
2020/05/30	11/14、21	5 ○	5 ○	5 ○	5 ○	3 ○	4 ○	5 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ○	4 ?	4 ○	4 ×
2021	11/29	5 ×	5 ×	5 ×	未 未	3 ×	4 ×	5 ×	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	4 ×	4 ?	4 ×	4 ×
2022	10/08	4 ○	3 ○	4 ○	未 未	4 ×	未 未	3 ×	未 未	未 未	未 未	未 未	3 △	3 ×	未 未	4 ○	4 △
2023	10/21	4 ×	3 ×	4 ×	4 ×	4 ×	未 未	3 ×	未 未	未 未	未 未	未 未	3 ×	3 △	未 未	4 ×	4 ×
2024																	
		割石沢	割石	割石峠下	呼子岳	蓬萊山前	鋸1	鋸2	鋸・北間	鋸・北間	北面コル	鋸・位牌	位牌頂	位・前間	位・前岳	前岳頂	
		1、	2	3	4	5	6	7	7-1	7-2	7-3	8	9	9-1	10	12	

活力度判定 5 = 健全 4 = ほぼ健全 3 = やや衰弱 2 = 衰弱 1 = 衰弱大 0 = 枯死

結実度判定 ○ = 豊作・沢山付いている。沢山落ちている △ = 普通・まあまあ。多くもなし、少なくもない × = 不作・全くない。ほとんどない

(参考 = ◎・特筆す

べき結実)

参考 (2023・北村)

※1. No1, No5 旧看板が見当たらず、対象木と判断したブナに新看板を取付け。(赤)

- ※2. No4 A 班が観察実施、看板が高所にあったため交換は保留。(黄)
- ※3. No9 枝に実は見えなかったものの、地面に種を多数確認。次ページ写真参照。(茶)
- ※4. No10 旧看板が木の下に落下していた(人為的か自然落下かは判断できず)。(青)

メモ

1. 2010年春=春は藪が多く、ダニ被害があるので、活力度は秋に行った。
2. 2013年秋=鋸岳の岩場には5~10年の幼木多数あり。NO. 4呼子岳頂上、NO. 6鋸岳は、木に沢山実が残っていた。
よって本年は全山で豊作と思われる。
3. 2017年秋=大豊作だった。特に位牌岳大ブナは、枝に沢山ついていた。
4. 位牌岳~前岳間の縦走路には、5~15年生の幼木が約100本以上ある。
2011年・第一回調査 <http://susono-reihou.babyblue.jp/53.pdf> 2019年・第二回調査
5. 春未実施の場合、秋観察で活力度を確認した・確認する年度がある。
6. ブナ観測かブナ観察かは、佐藤先生の論文にならい、「観察」で統一した。
7. 2020年度=豊作だった。呼子岳~越前岳間縦走路にブナ幼木が多い。
8. 2023年度=看板不明が多く、慣れた観察者なら問題はないが、観察木特定が難しかった。(人為的に外された可能性あり)
今年度は、観察木が少なく、全体評価は難しい。